

# SPR—SE 工法を発表

SPR工法協東海支部

写真。

石川氏はあいさつの中で「入社以来、長い間下水道整備工事に携わり、下水道の老朽化に起因する道路陥没事故に対処してきた。下水道改築の重要性は身をもって感じている」と述べた。

SPR—SE工法は従来のSPR工法と同様、プロファイルと呼ばれる、塩ビ製の帯状の材料を水管内で機械によりスパイラル状にはめ合せながら更生管を製造し、既設管と更生管の間に間詰め材を充填（じゅうてん）するもの。従来品と異なる点はプロファイルに高剛性のスチール補強材を組み込むことにより間詰め材の強度を考慮せずに更生管のみで自立管として新管と同等以上の強度を有する。また同工法は7月に日本下水道協会発刊の「管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドライン」への適用も認められ、国庫補助の対象となったことも新しいトピックスとして紹介された。



日本SPR工法協会東海支部（相澤宏暢支部長）は、建設技術発表会でSPR—SE工法について発表した。プレゼンターは石川正人氏（服部組）

既設管と更生管の間に間詰め材を充填（じゅうてん）するもの。従来品と異なる点はプロファイルに高剛性のスチール